人と共に生きる問いを 実際の判断へ

「公共の利益を創造できるリーダー開発」｜書物と、人に関わる経験をつなぐ

自分の役割の その先を見る

この判断で、
誰のどんな暮らしや仕事が
変わるのか。

知識を学ぶことと、
実際の相手に関わることを
行き来します。

2021年8月5日に提供開始を発表。実践と開発・提供は現在も続いています。

原発表資料 pp.1〜3。挿絵は書物と仕事の案を照らして話す場面の例。

現場で問い続けてきたことを 公共の利益へ

当社の「需要創造リーダーの開発®」をベースに、開発・提供を広げました。

約20年

組織・企業のリーダー開発に
関わってきた期間。

約840社

2021年の発表時点での
開発提供実績。

次の世代を送り出せる社会にしたい

自分の子供が大人になるまでに、子供たちが暮らす組織や社会を
少しでも善くしておきたい。目先を切り抜けるだけで終わらず、
相手の問題を解き、その先の人の暮らしまで考えて行動する。
「人が共に生きるとは何か」「何が本質なのか」を問い続ける
リーダーを育てたい。

リクエスト株式会社 代表取締役
甲畑智康

原発表資料 pp.2〜3／2026年改訂本文。期間・社数は当時の事業実績。

言葉の意味を考え 人の生き方に向き合う

旧制高校や予備門から着想を得た、当社のリーダー開発の考え方です。

書物に触れる

哲学・文学・歴史を読み、
言葉と文脈を理解する。

問いが生まれる

なぜそう考えるのか。
時代や立場を想像する。

人との関わりへ戻る

相手や社会に望ましい
打ち手を考え直す。

予備門で、外国語の専門課程に備えて→哲学・文学・歴史を読む学びに→着想を得ました。
原発表は対象を同世代の「1%未満」、学ぶ期間を「3年間」と記しています。

教養という知識を増やすことだけを 目的にしない

書物から考えをつくり、実際に人と関わりながら、自分の判断の軸を育てる。
自分を押し殺さず、相手を傷つけず、共に働く感覚を養うことへつなげます。

原発表資料 pp.1〜2。数値を含め、原発表の歴史への着想と当社の実践提案として整理。

案を決める前に影響を受ける人へ聞く

担当としての合理性と、相手が担う仕事を、同じ場に並べます。

今の案	何を実現したいか。誰の利益につながるか。
相手の現実	この案で、誰にどんな仕事や負担が生まれるか。
本人に確かめる	その人は、いま何を経験し、どう受け止めているか。
一部分を試す	自分たちの案を見せ、試す範囲と次に確かめることを相談する。

最近の一件なら、まず誰の話を聞きたいでしょうか。

2026年改訂本文の、仕事で使うための提案。

相手を見失わずに 分業の力を生かす

原発表は、効率を支える分業と、他者を想像する経験との関係を問い直しました。

効率を求める → **分業が進む** → **処理・対処が習慣になる** → **特定の相手が見えにくくなる**

相手を想像する機会が減ると、悪気なく自分たちの都合を押し付けてしまう。

正確に速く処理する力は必要。その力を、誰のどの問題を解くために使うのか。

当時の現場で見ていた「9割以上」の状態

原発表では、当時関わってきたオペレーターの「9割以上」に、
処理・対処が常識となり、相手を想像せず都合を押し付けても、
違和感が起こらない状況を見ていたと記しています。
当時の関わりの中で捉えた状態として、対象と時期を分けて伝えます。

原発表資料 pp.1〜2／2026年改訂本文。当時の現場観察と、現在の仕事で使う問いを区別。

相手の問題を解くために 三つの点を確かめる

最近の一件を思い浮かべ、説明・行動・相手への対応を並べてみます。

説明と実行をそろえる

1 伝えていることは、事実と合っているか。

2 率先して示した行動を続けているか。

3 その場を収めるだけでなく、問題の解決へ進んだか。

4 人に見られない場面も、相手に説明できる行動か。

難しいときも関わり続ける

5 都合が悪いときも、相手の前に立っているか。

6 提言に、実現の見通しを添えているか。

7 一般論だけでなく、相手の事情に応えているか。

8 責任を誰か一人に集中させていないか。

9 有利な立場へ移るだけになっていないか。

説明・謝罪を問題解決につなぐ

10 相手に生じた迷惑や負担を覚えているか。

11 自分が引き受ける責任は何か。

12 「科学的な事実はない」で終えず、相手に起きたことを具体的に確かめたか。

13 謝罪文だけで終えず、次に何を行うか伝えたか。

原発表の13の行動上の問題を、2026年改訂本文の三つの群に沿って前進確認の問いに整理。

現場の実践と 公共の行動をつなぐ

公共行動の科学「公共の利益を創造できるリーダー開発」開始

旧制高校の学びからの着想を、
約20年のリーダー開発へつなぐ。

No.040の発表を読む

企業の実践から、
公共の行動へ研究と実践を広げる。

公共行動の案内

原発表資料 pp.1～3。掲載画像は当時の表紙・関連発表です。

芸術と応用行動分析学を 仕事に生かす

リクエスト株式会社｜代表取締役 甲畑 智康

o to 1

芸術と応用行動分析学にもとづいた

smart creative management®

スマートクリエイティブマネジメント総合研究所とABAオペレーションズ研究センターで、人と組織の行動、創造力、ロボットの使いやすさを実験検証してきました。

発表当時の実績は約840社。従業員数30,000人の組織から年商30億円までの中堅企業、上場準備直前の企業へ開発提供しました。

スマートクリエイティブマネジメント®は弊社の登録商標です。

会社：requestgroup.jp
代表者の紹介
相談：requestgroup.jp/request
request@requestgroup.jp

関連リリース一覧

原発表資料 p.3／2026年10月25日改訂。